寄贈された食品利用で コミュニティレストラン

広島県広島市安佐北区 NPO 法人あいあいねっと

２００９年10月から、寄贈された余剰食品を利用したコミュニティレストラン事業をスタート。名付けて「まめ nan」レストラン。営業は、毎週火曜日・金曜日の午前11時から午後2時まで。築１００年近い古民家で食べるお昼ご飯を楽しみに、毎回多くの人が訪れる。

メニューは、特製あんかけうどん（２８０円）や俵むすび（2個、70円）、その他は、その時々に寄贈された食品を使って日替わりのメニューを決める。いずれも非常に安価だ。

「食べることの安心を提供して、それに地域の高齢者の経済的負担を軽くしたい」と話すのはフードバンク事業を基幹事業にコミュニティレストラン事業などに取り組んでいるＮＰＯ法人あいあいねっとの理事長・原田佳子さん。

活動を始めた動機は、管理栄養士として病院・老人保健施設に勤務している原田さんが、見てきた入院患者の退院後の食生活だった。特に高齢患者の食生活が気がかりだった。退院後、身体的な理由で食事作りが困難になった上に、経済的事情で栄養面より安さを優先せざるを得なくなったケースを原田さんは数多く見てきた。自治体が補助金を出している配食サービスでさえ高額で利用できないという人もいたという。

管理栄養士として「食」を切り口にこの課題の解決の糸口を探った。そこで、注目したのが「フードバンク」というシステムだった。この仕組みを構築し活用することで高齢者の「食」を支援しようと活動を始めた。

「フードバンク」とは、「パッケージの印字ミス」「缶が凹んだ」「賞味期限が近付いている」などの理由から市場に流通できず廃棄される食品を、食品製造企業などから無償でもらい受け、必要としている要支援生活者を支援する団体に無償で分配するシステムこと。日本では、２０００年に東京都台東区で、２００３年に兵庫県芦屋市でそれぞれＮＰＯにより活動が始まり、あいあいねっとは全国で3番目にフードバンクの取り組みをスタートさせた。

企業等からもらい受けた余剰食品を食材として提供するだけでなく、食事も提供したい、そして「食」を真ん中に、地域のふれあい場所として、あいあいねっとを活用していきたい、そんな願いからフードバンクの一環として2年前に「まめｎａｎ」レストランを始めることになった。

地元の女性たちが調理やサービスなどを担当し、野菜を多く使い高齢者の健康志向にも配慮したメニューの提供に努めている。ここでは主婦としての経験が役立っている。

「自分の健康に感謝しながら、楽しんでやっていますよ」と守本恵美子さん。ヘルパーをやりながらあいあいねっとで活動している。

「まめｎａｎ」レストランを訪れるお客さんは1日およそ25名、多い時は50～60名近くある。知名度も徐々に上がって来てお客さんの数も増えている。昨年実施したアンケートには、「安く食べられるので助かる」「雰囲気が落ち着いていて食事が美味しい」「会話が弾ん

で楽しい」などの意見が寄せられた。

80歳を超えるご夫婦が来店した時のこと。おばあちゃんは連れ合いのおじいちゃんを指して曰く、「この人が全然食べなくて困ってるの」。ところがここではおうどんにおにぎりをぺろりと完食し、おつゆまで全部飲んだという。おばあちゃんもびっくりして、ものすごく感謝されたそうだ。

「そういうのを見ると、本当に涙が出るほどうれしいですよね。人の役に立ってるなあと思って」と難波禮子さん。

長年、管理栄養士として「食」の現場に立ち会ってきた原田さんの経験から、食品製造関連企業等の協力を築き、あわせて、社会福祉協議会などを通じ、食料を受け取るパートナーシップ団体との関係も強化した。2010年3月現在の協力企業は18社、パートナーシップ団体は19団体、個人活動賛助会員数は65名となっている。

「まめ nan」とは、寄贈された余剰食品からゴミのイメージを払拭したい、地域住民に親しみを与えたいと名付けたという。「まめ」とは広島弁で「元気」のこと。「まめなんね?」「まめにしよるんかいのぉ〜?」昔、町角でこんな挨拶が交わされていたように、「まめ nan」を通して、食べることや地域のことを考え、元気や健康づくりに活かす活動を展開していきたいという願いが込められている。

■連絡先　〒731−0221
広島県広島市安佐北区可部3−9−22
電話・ファックス　082−819−3023